別記様式第6

論 文 審 査 の 要 旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士（　文学　） Ph.D.	氏 名 (Candidate Name)	蔡　源玥
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当		

論　文　題　目 (Title of Dissertation)

医療従事者-患者関係の再考　―「信頼関係」の再構築に向けて―

論文審査担当者 (The Dissertation Committee)

主　　査 (Name of the Committee Chair)	准教授	後藤　雄太
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授	衞藤　吉則
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授	後藤　弘志
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授	本田　義央
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	奈良医科大学・准教授	池邉　寧

〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)

本論文は，現代社会における医療従事者と患者のあいだの「信頼関係」の危機の現状・原因について考察し，「信頼関係」を再構築する方法を探究したものである。医療従事者と患者の関係をめぐる倫理的問題は，とかく両者（特に医療従事者側）の「姿勢」や「心持ち」に議論の焦点が当てられがちだが，信頼関係成立の条件を，諸個人の内面のみに還元するのではなく，より広く社会的・文化的環境から分析したうえで解決のための提言を試みている点に，本論文の特質がある。

本論文は，全４章から成る。

第一章では，西洋のバイオエシックスにおける医療従事者-患者関係に関する理論を概観したうえで，それらは，医療者の倫理意識を高めることや，医療者と患者との相互協力，および相互理解を促進することに重きが置かれており，その背後にある文化的・社会的環境が十分に考慮されていないことを問題点として抽出している。バイオエシックスに対する批判の論証が不十分な面もあるが，より広く文化的・社会的環境をも考慮すべきとする論旨自体は十分に意義深いと言える。

第一章で提起された問題意識のもと，第二章と第三章では，日中両国の医療の歴史と現状について調査と考察を試みている。

まず第二章では，日本における医療従事者-患者関係の歴史的変遷を振り返ったうえで，その現状について分析している。その結果，患者の権利意識の歴史的形成が内発的なものでなかったため，医療への「信頼」というよりも権威への盲目的服従の傾向が強くなってしまっているという文化的特質を，現代日本における医療従事者-患者関係の問題点として指摘している。

続く第三章では，中国における医療従事者-患者関係の歴史的変遷を振り返ったうえで，その現状について分析している。その結果，前近代的な親密な個人間の人間関係に「信頼」の根拠を求めがちな点や医療者に倫理性の高さを過度に期待する傾向が強いことなどを，現代中国における医療従事者-患者関係の問題点として指摘している。

第二章と第三章に関して，歴史的変遷に対する調査に不十分な点はあるものの，日中それぞれの現代医療における問題点の指摘は，具体的事例の分析も踏まえたうえでの適切な指摘であり，説得力がある。

最後の第四章では，ニクラス・ルーマン，アンソニー・ギデンズ，山岸俊男らの信頼論を参照しつつ，現代中国における「信頼危機」の要因について分析したうえで，信頼関係の再構築のための提言

を試みている。著者による提言は，大まかな方向性の示唆にとどまってはいるが，社会システムの漸次的改善を主に目指す方向性自体は，現実的かつ堅実なものであり，傾聴に値する。

議論の対象の広さゆえ論証の粗さも少々見受けられるものの，個人の内面を基軸に考察されがちな医療現場における信頼関係の問題を，社会的・文化的文脈を広く考慮しつつ考究している点，また日中両国の医療の歴史と現状を分析したうえでアクチュアルな提言を試みている点などは，本論文の独自性として高く評価することができる。

以上，審査の結果，本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考　要旨は，1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)